

CONTENTS

- 1 最近のSCOPEの動向
- 2 令和5年度「港湾施設の維持管理実務技術者講習会」を開催
- 3 第7回「洋上風力セミナー」開催報告
- 4 第14回「空港土木技術講演会」を開催
- 5 令和5年秋の技術講習会の開催
- 6 SCOPE 現場訪問
東京国際空港旧整備場地区エプロン他舗装等工事
- 7 SCOPEからのお知らせ

SCOPE NEWS

最近のSCOPEの動向

業務執行理事 岡本 圭司

昨年6月21日付で業務執行理事に就任しました岡本です。よろしくお願いします。前職の損害保険会社には36年間勤務し、損害調査部門(査定)と営業第一線におりました。

昨今のテクノロジー発展や社会課題の顕在化により、世界が加速度的に変化する中で損害保険会社も新たなリスクを考えねばならなくなりました。損害保険会社はあらゆるリスクを予測し、どのように補償するかを考え、人や企業の挑戦を支えるために様々な知見やノウハウを蓄積しています。近年では、数十年に一度といわれる災害による甚大な被害が毎年のように発生しています。自然災害によって安心や安全が脅かされ、リスクと補償のバランスが大きく崩れるような未来では、損害保険というビジネスは成り立ちません。気候変動は損害保険の存続を左右する最優先課題ともいえます。

2050年カーボンニュートラル宣言以降、脱炭素化に向けた動きが加速していますが、それと同時に大規模自然災害が猛威を奮い始めました。2018年大阪湾に來襲した台風21号では、大阪港、神戸港において第二室戸台風以来50年以上ぶりに既往最高潮位を更新し、コンテナの航路・泊地への流出により3日間、港湾機能が停止しました。このほかコンテナの倒壊や電源施設の浸水をはじめ、港湾施設及び海岸保全施設に大きな被害が生じました。

台風21号を筆頭に、気候変動による経済損失の大きさが数字で可視化できるようになったのがここ数年の特徴です。とりわけ顕著なのが損害保険会社の支払いで、台風21号だけでも保険金支払総額は1兆円を超えました。気候変動に関しては各種研究調査が進む中で、新たな数値も公表されています。例えば、温暖化対策の国際的な枠組み「パリ協定」では、世界の平均気温の上昇を産業革命前に比べ1.5℃に抑えるのが目標ですが、もう既に約1℃上昇しており、このまま対策を上積みしなければ、2℃を超えてしまうという予測もあります。仮に平均気温が2℃上昇した場合、日本沿岸で平均39cmの海面水位上昇があると「港湾における気候変動適応策の実装方針」にも示されています。

自然災害を減らしていくためには気温を下げるしかありません。そうした状況を受けて世界のトップ企業を中心に「宣言から行動へ」と今まさに動き出しています。つまり、脱炭素化をビジネスの課題に据え、本業のビジネスで解決していくという姿勢に変わり、この脱炭素社会への移行は、中長期的な視点で企業経営を強化する契機となっています。

2050年カーボンニュートラルを実現するため、CO₂排出量の多い港湾・臨海部で脱炭素化を積極的に進めるカーボンニュートラルポート（以下CNP）が注目されています。地球温暖化対策計画では、2030年に温室効果ガス46%削減

（2013年比）を目指すこと、さらに50%の高みに向けて挑戦を続けることが表明されています。これらを受け2022年12月に、港湾における脱炭素化の推進を主な目的として「港湾法」が改正されました。将来の気候変動を抑えるためにも、港湾に関係する企業や行政などがこれまで以上に一体となってCNPを進めていかなければなりません。

2019年「SCOPEビジョン2030」が策定されましたが、政府がカーボンニュートラルを目指すことを宣言したのはその翌年です。経済・社会を取り巻く環境は大きく変化しました。気候変動に伴い港湾・空港は自然災害の頻発化、激甚化に直面しています。今年、30周年を迎えるにあたり「SCOPEビジョン2030」も改めて見直すことになります。その際にはCNPの速やかな実現化をはじめとし、港湾・空港工事における脱炭素化の調査・研究をさらに促進していきます。SCOPEとしてもカーボンニュートラルへの取組を「宣言から行動へ」と邁進します。



令和5年度「港湾施設の維持管理実務技術者講習会」を開催

建設マネジメント研究所 主任研究員 三木 英

港湾施設の維持管理は、国土交通省が策定した「港湾施設の点検診断ガイドライン」等に基づき、港湾管理者や民間事業者によって行われています。SCOPEでは、実際に港湾施設の維持管理を行っている港湾管理者や民間事業者の方々に、港湾施設の戦略的な維持管理に関する現在の取組や点検・診断・補修等に関する最新技術について情報提供するため、平成25年度から「港湾施設の維持管理実務技術者講習会（旧・港湾施設の維持管理実務技術研修）」を開催しています。従来は2会場で開催してきましたが、令和3年度より東京会場とオンライン配信によるハイブリッド開催としています。

今年度はSCOPE本部会議室を東京会場として令和5年11月2日（木）に開催し、会場では16名、オンラインでは194名の方々に参加していただきました。

当日は国土交通省港湾局、東京港埠頭株式会社の講師の方から、行政・運営側の立場から港湾施設の維持管理の取組についてご講演いただきました。続いて、株式会社ナカボーテック、ショーボンド建設株式会社、東亜建



設工業株式会社、前田工織株式会社、株式会社ジオファイブ、国際航業株式会社の講師の方から、点検・診断・補修等、幅広い内容についてご講演いただきました。

講習会終了後のアンケートでは、参加者のほとんどの方から講習会について「満足・ほぼ満足」との評価をいただきました。今後とも港湾施設の維持管理に関する有意義な情報を提供できるよう取り組んでまいります。

令和5年度「港湾施設の維持管理実務技術者講習会」プログラム

■日時：令和5年11月2日（木） 13:15～17:30

■会場：SCOPE本部会議室（オンライン配信併用）

■プログラム

13:20～13:50 国土交通省港湾局

「国土交通省における港湾施設の維持管理の取組」

13:50～14:20 東京港埠頭(株)

「東京港埠頭(株)における港湾施設の維持管理の取組」

14:20～14:50 (株)ナカボーテック

「鋼構造物の防食・補修工法」

14:50～15:20 ショーボンド建設(株)

「コンクリート構造物の補修工法」

15:30～16:00 東亜建設工業(株)

「CIMを取り入れた岸壁補修工事における施工管理の効率化の取組」

16:00～16:30 前田工織(株)

「護岸・岸壁の吸い出し、陥没を抑止するケーソン目地透過波低減法（ネットバッファ工法）」

16:30～17:00 (株)ジオファイブ

「三次元地中レーダを用いた空洞探査技術」

17:00～17:30 国際航業(株)

「ナローマルチビーム・レーザスキャナ・UAVを用いた港湾施設の効率的な三次元計測」

第7回「洋上風力セミナー」開催報告

..... 洋上風力部 調査役 本松 弘

令和5年10月24日(火)に開催したので、その要旨を報告します。今回も、前回と同じく「Webセミナー」にて開催しました。YouTubeのライブ配信では、最大約900名、セミナー終了後のアーカイブ配信では、300名、アンケートでは、約200名のアクセス数がありました。

開会にあたり、山縣SCOPE理事長が、「SCOPEは、基地港湾整備等の公共事業の技術支援やMWS業務等を行うことにより、洋上風力事業の推進、カーボンニュートラルの実現に貢献していく所存である。政府の具体的な数値目標も大きな推進力になると考えており、今後は、浮体式が大きなテーマとなって洋上風力事業の推進が加速していくものと考えている。風車部材の国内調達率については、60%を名指すことに期待している。SCOPEの海上施工の技術力およびその英知を結集することにより洋上風力導入促進の業務のお役に立てばと考える。」と挨拶しました。

基調講演「我が国における洋上風力発電の現況と取り組み」 国土交通省 港湾局 海洋・環境課長 中川 研造氏

世界の再生可能エネルギーの導入状況・我が国の方針、洋上風力発電の導入促進に向けた我が国の取り組み、洋上風力発電導入目標の達成に向けた今後の展望について講演されました。浮体式洋上風力に係わる産業の在り方の検討を目的に、官民協議会の作業部会として、「浮体式産業戦略検討会」を設置して検討を進めている。主な議論の方向性として、浮体、係留チェーン、索の量産化、作業船の建造等が上げられる。浮体式の安全基準・ガイドラインについては大規模ファームでの運用を想定した改訂が必要である。浮体式の基地港湾に求められる機能・規模については、既存港の活用を含めて検討中である。排他的経済水域への導入拡大については、法整備を始めとする環境整備を進め、制度創設へ向けて検討中である。海外の資材高騰などにより洋上風力事業に少し向かい風が吹いている感があるが、風が強いほど風車は回るので、経産省等と連携して環境・経済政策に取り組んでいく所存である。



国土交通省港湾局
中川 海洋・環境課長

講演「秋田から入善へ～日本初の一般海域洋上風力への挑戦～」 株式会社ウエンティ・ジャパン 代表取締役社長 佐藤 裕之氏

会社設立経緯、東日本大震災が大きな契機となり推進してきた秋田潟上ウインドファーム等の風力発電事業への取り組み状況、国内初の一般海域にて完工した入善沖事業の経緯、秋田県で風力発電が推進される地域の背景、由利本荘沖事業の概要等について紹介されました。「次世代エネルギーコンソシアム」設立の趣旨、洋上風力導入に呼応した秋田での動き、



ウエンティ・ジャパン
佐藤 代表取締役社長

秋田風力発電コンソシアム「秋田風作戦」の活動概要、秋田風作戦による製造業への波及、訓練機関の創設、経済への波及効果の試算等について説明されました。また、地域の活性化については、都会とは違う地域資源の発掘、コンソシアムにて取り組む共同体感覚、秋田の地域プライドが大事であると説明されました。

講演「北九州響灘洋上ウインドファーム建設工事の概要」 ひびきウインドエナジー株式会社 取締役建設所長 古山 泰史氏

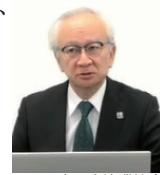
建設工事の概要、設計、進捗状況について紹介されました。本工事は、北九州港に基地港が整備されるなど恵まれた立地下にあり、北九州市の更なる発展に貢献する「地域と歩むウインドファーム」を目指して建設中である。設計では、地盤調査、地震応答解析(極稀地震に対する耐震設計)、杭の引抜き、グラウト接合部の試験、工事概要では、製作中のジャケット、テンプレート、O&M拠点港の工事状況について説明されました。洋上風力事業の総合拠点化への貢献として北九州市が推進している「グリーンエネルギーポートひびき」事業の実現へ向けて協力し、地域での取り組み・地域との共創のため漁業への貢献等、様々な活動を実施していると説明されました。



ひびきウインドエナジー
古山 取締役建設所長

講演「浮体式洋上風力の大量急速施工に向けて」 一般社団法人日本埋立浚渫協会 技術委員会 委員長 野口 哲史氏

浮体式洋上風力の大量急速施工へ向け、海上プラットフォーム(以下:海上PF)建設の必要性および海上PFの使用による風車部材設置の稼働率の向上効果等について説明されました。試算結果では、海上PF方式は浮体の相対動揺を起重機船方式の1/2程度に抑えられ、海上での稼働率は3倍以上が見込める。地中海の浮体式基地港湾の事例等を参考に、国内で必要な海上PFの基数の検討を行い、日本全域をカバーするには6～7ヶ所程度が必要である。海上PFの課題として、所有者・運営主体が誰になるのか、効率的建設方法、複数事業者による供用調整、維持管理における活用方法があると説明されました。



日本埋立浚渫協会
野口 委員長

閉会にあたり、「SCOPEは、事業者の支援として、入善沖、石狩湾新港事業のMWS業務を行った、その経験を活かし、浮体式も視野に含め、北九州港等の事業にてMWS業務を行う予定であり、引き続き事業者の支援していく所存である。今回開催のセミナーは、洋上風力事業の推進のために開催しているものであり、来年も飛躍的に洋上風力事業が進むことを期待しています。」と、松田SCOPE業務執行理事が挨拶しました。

以上

第14回「空港土木技術講演会」を開催

..... 調査部 担当部長 佐藤 佳行

当センターでは、社会資本として重要な交通インフラである「空港」に関して、有識者の方々に講師としてお招きし、航空行政の動向や最新技術の動向等についてお話を頂く「空港土木技術講演会」を平成22年度から開催しており、今回で14回目の開催となります。従来は、東京と大阪又は福岡（隔年）の2会場で開催してきましたが、令和2年度より東京会場とオンラインによるハイブリット方式での開催としています。

今年度は令和5年11月15日（水）にスコープ2F会議室を東京会場とし、27名の聴講者に参加頂くとともに、同時オンライン配信では286名の方々に聴講して頂きました。

当日は水上常務理事からの挨拶のあと、下記の5名の方々にご講演を頂きました。

講演1

国土交通省 航空局 航空ネットワーク部
空港技術課 佐藤課長

・航空行政の話題と題して、①航空輸送の状況②空港の機能強化（首都圏空港の機能強化、近畿圏・中部圏の空港の機能強化、一般空港等の機能強化）③空港の大規模自然災害対策④空港のカーボンニュートラル⑤空港運営の民間委託（コンセッション）⑥航空のイノベーションの推進について、事例を含めて講演を頂きました。



講演2

国土技術政策総合研究所 空港研究部
河村主任研究官

・空港舗装の材料等に関する近年の調査研究と題して①アスファルト混合物の劣化評価方法、②緊急補修に用いる常温混合部の規格の検討、③グルーピングの寸法の検討、④アスファルト混合物の一層最大施工厚、空港舗装に用いるコンクリートの配合の調査について講演して頂きました。



講演3

中部国際空港株式会社 塩田執行役員

・中部国際空港現状についてと題して、①セントレアの現在②持続的な成長の実現に向けた取り組み③逆境を乗り越える経営④未来への備え（空港機能強化・SDGs・脱炭素）と多岐に渡る内容について講演を頂きました。



講演会の様子

講演4

国土交通省 航空局 航空ネットワーク部
空港技術課 木元専門官

BIM/CIMプラットフォームについてと題して、BIM/CIM活用の効果や、空港における活用に向けたロードマップの説明、空港におけるプラットフォームの構築について講演を頂きました。



講演5

国土交通省 航空局 航空ネットワーク部
空港技術課 八津川専門官

設計変更ガイドラインの策定についてと題して、①ガイドラインの策定のポイント②位置づけ③ガイドライン本編の構成④本編の概要について講演頂きました。



講演会終了後に実施したアンケート結果でも、講演内容について分かりやすかったとの評価をいただきました。

また、聴講者の方々についても空港管理者（国、地方自治体及び会社等）、建設会社、舗装会社及びコンサルタント会社等多岐にわたっていますので、講演会を通じて、空港関連業務に関わる技術者の方々技術力向上のお役に立てたのではないかとおもっています。

引き続き、来年度以降も多くの方々に聴講していただけるような講演会を開催したいと考えておりますので宜しくお願い致します。

令和5年秋の技術講習会の開催

..... 審査・認定部 調査役 池上 成洋

海上・空港工事施工管理技術者／空港土木施設点検評価技士の継続学習の一環として、技術力の向上を図ることを目的に技術講習会を開催しました。秋の技術講習会は、10月に大阪及び福岡の2会場で開催し、計351名の方が受講されました。

大学教授による技術者倫理やIT建設技術の動向等についての共通講演を行った後、海上工事施工管理技術

者と空港工事施工管理技術者及び空港土木施設点検評価技士に分かれて最新の施工事例や技術動向について講習を行いました。

受講者には、最後に受講報告書を作成し提出してもらい、後日、事務局で内容確認の上、資格更新のためのポイントを付加しました。

各講演の内容は下記の通りです。

大阪会場（10/13）（海上：170名 空港：33名）

【共通プログラム】

「廣井勇と北海道の築港」

萩原建設工業（株） 特別顧問 関口 信一郎

「技術者倫理の再確認-失敗に学ぶ-」

横浜国立大学 名誉教授 池田 龍彦

【海上工事技術者プログラム】

「BIM/CIM、ICTにおける当社の取り組み」

（株）不動テトラ 土木事業本部 技術部開発課
担当課長 長沼 重人

「徳山下松港ジャケット栈橋築造工事の課題と 対応及びICT技術への取り組み」

東亜建設工業（株） 横浜支店 三島 淳史

【空港工事／空港点検技術者プログラム】

「空港舗装工事・維持管理に適用可能なICT技術」

（株）トプコンソキアポジショニングジャパン
M&E 平岡 茂樹

「空港舗装工事のトラブルシューティング」

（一財）港湾空港総合技術センター
客員研究員 八谷 好高



大阪会場：共通

福岡会場（10/27）（海上：121名 空港：27名）

【共通プログラム】

「これからの土木技術者に求められる素養と気概」

東京工業大学 教授 岩波 光保

「世界のIT活用建設技術の動向を知る

-日本のi-Construction の進むべき道を考える-

高知工科大学 名誉教授 草柳 俊二

【海上工事技術者プログラム】

「沖合洋上工事における施工上の留意点」

東洋建設（株） 土木事業本部 海洋開発部
課長 久富 真悟

「洋上風力発電に関する施工技術と 導入拡大に向けた取り組み」

五洋建設（株） 洋上風力事業本部
営業部長 島谷 学

【空港工事／空港点検技術者プログラム】

「空港舗装工事・維持管理に適用可能なICT技術」

（株）トプコンソキアポジショニングジャパン
M&E 平岡 茂樹

「舗装点検・評価の新たな展開」

（一財）港湾空港総合技術センター
客員研究員 八谷 好高



福岡会場：空港

羽田空港のさらなる機能拡充を目指して

東京国際空港 旧整備場地区 エプロン他舗装等工事

旧整備場地区の高上げを実施

60余年にわたり空の玄関口として活躍している東京国際空港(羽田空港)。24時間稼働している大基幹空港で、年間旅客数は世界第5位となる約8,500万人にのびります。東京国際空港では、現在、国内線・国際線の乗り継ぎの利便性向上や人工地盤の整備、拠点空港機能の拡充に向けて、旧整備場地区の再編整備を行っています。旧整備場地区は地盤が低く、豪雨になると広範囲で冠水し、以前から運用に支障をきたしていた場所でもありました。そこで駐機場整備に合わせ、冠水対策として用地高上げ(1～3m程度)等の整備も実施しています。

今回は旧整備場地区の現場を訪れ、整備事業の状況やSCOPEの役割などを伺うとともに、工事の内容等について施工業者である株式会社NIPPOの方々にも話を伺いました。

コンクリート舗装に適した「曲げコンクリート」を使用

今回の整備事業はエプロン部分の舗装工事がメインで、全体の73%を占めています。取材時(2023年11月)は、全72,400m²のうち40,095m²(55.4%)が完成していました。

「コンクリート舗装は2層施工になっている、1層目(下層)にはダンプトラック約5台分ほどのコンクリートを敷き均し、締固めを行い、その後、コンクリートのひび割れ対策としてワイヤーメッシュを入れます。2

[DATA] 東京国際空港 旧整備場地区エプロン他舗装等工事

整備施設: 土工、撤去工、舗装工(コンクリート舗装: 73,400m²、アスファルト舗装: 1,528m²)、排水工、標識工、付帯施設工、仮設工、交差点部工事

事業期間: 令和5年1月～令和6年3月



層目(上層)は、コンクリートスタッカーを使って厚さ13～14cmほどのコンクリートを荷下ろししスリッパフォームペーパーで仕上げを行います。また、地震で地盤沈下起きた時などにずれないようにするため、コンクリートの継ぎ目のところにジョイントを設置しています」(NIPPO 田中さん)

舗装に使われるコンクリートは建造物に使うコンクリートと違い、より強い強度の「曲げコンクリート」が使われています。

「国の基準で定められた『曲げコンクリート』を製造し、試験に通ったものを材料として施工しています。このコンクリートは上から圧縮して何キロで潰れるかという基準ではなく、曲げが5ニュートンという規格が



ジョイント: コンクリートの収縮や伸縮などの応力を軽減する

あります。圧縮と曲げの関係は約8倍といわれており、40ニュートンが基準となります。構造物のコンクリートはおおよそ18～24ニュートンですから倍くらいの強度をもったコンクリートを使用しているのです。また、スランプ(硬さ)も違い、コンクリート舗装では基準が2.5cmと硬いものを使用します」(主任TE 安倍さん)

【お話を聞いた人】

一般財団法人港湾空港総合技術センター
羽田空港支部

調査役 兼益 正樹さん

主任テクニカル・エキスパート

主任テクニカル・エキスパート

主任テクニカル・エキスパート

あんばい

安倍 昭吉さん

石垣 誠一郎さん

清水 豊さん



コンクリート打設状況：打設完了後に養生シートをかけていく

空港という制限下での施工管理の工夫

コンクリートを運搬する際、通常はミキサー車で運搬されますが、今回使用されているコンクリートは硬く、ミキサー車で運搬することができないため、ダンプに詰め、養生シートをかけて生コンプラントから運搬しています。

「運搬に使用されているダンプは34台をフル稼働しています。生コンプラントから現場に運んで落とす込んだ後、現場出口付近に残った生コンを水で洗い流して再び生コンプラントへ向かう、ということを繰り返します」(NIPPO 近藤さん)

「コンクリートは打設した後、ひび割れ対策のために養生する必要があります。養生は季節によって変化し、夏場はすぐに養生マットをかけて散水養生を行わないと表面が乾き、ひび割れが起きてしまいます。真冬になると、外気温とコンクリートとの温度差が広がりひび割れの原因となり注意が必要です。また、養生マットがとても軽く、風が強い時などは航空機の方に飛んでいってしまうと重大な事故につながるため細心の注意を払っています」(NIPPO 田中さん)

空港という特殊な場所での施工は、航空機の安全運航確保のために細やかな注意が必要となります。

「制限区域内で、かつ夜間の作業はとても大変です。滑走路や誘導路には航空機を案内するための灯りがたくさんあり、それらによって自分の位置がわからなくなったり、真っ暗な場所でも自分の位置を確認するのに時間がかかります。運用している場所を通る際には管制と無線のやり取りをしながらの作業になるため、受注者と一緒に現場に入るなど単独で行動



コンクリート打設状況：ブレードスプレッダ(下層コンクリート)



コンクリート打設状況：スリップフォームペーパー(上層コンクリート)

しないようにしています」(主任TE 安倍さん)

「梅雨の時期などは天気の影響で遅れていましたが、最近は取り戻してきていて工程に合ってきました。天気に関してはどうしようもないところもありますが、週に1度、発注者、施工業者とで行う工程会議などで状況を把握し、承諾が必要なものに関しては迅速に書類が回るようにしています。また、遠隔臨場ではZoomやTeamsを利用して検査の確認をすることで業務の効率化をはかっています」(調査役 兼益さん)

2017年エプロン部分に開始した嵩上げ整備事業も半分以上が完成し、2023年度からランドサイド部に順次着手、旧整備場地区の再編整備は2030年代中頃の完成予定となっています。世界トップクラスの旅客数を誇る国際空港として、安全性・利便性がより向上することが期待されています。



左から NIPPO の田中さん、近藤さん、調査役の兼益さん、主任 TE の安倍さん(石垣さん、清水さんは夜間担当のため不在)



調査役 兼益 正樹さん

羽田空港では深夜でも航空機は稼働しています。自走もあればトーイングされている航空機もありますが、深夜作業中に誤ってこのような航空機の進路を妨いでしまえば重大事故と見なされ大問題に発展します。このような特殊な環境のなかで皆、細心の注意を払い、がんばってくれています。

主任テクニカル・エキスパート 安倍 昭吉さん

工事・業務調査は常時10件～20件あり、多くの立会業務に対応しています。立会にあたっては、発注者支援業務共通仕様書を遵守し、受注者に対して中立性・公平性をもって行っています。また空港土木工事共通仕様書等を十分理解し、立会時に留意する点などについては発注者に速やかに報告・相談するようにしています。

主任テクニカル・エキスパート 石垣 誠一郎さん

現場は「これから空港をつくる」という活気に溢れています。最新技術で施工する現場もあり、施工管理者として学ぶべきことが多々あります。地下商店街やモノレール駅の上での工事があり、困難な現場をやり遂げている業者もあります。そのなかで我々 SCOPEの各技術者が、日々、施工管理に当たり、業務を遂行しています。



主任テクニカル・エキスパート 清水 豊さん

24時間運用されている羽田空港での工事の実施は、時間などの制約が非常に厳しい環境にあります。SCOPEの業務も工事内容等を理解した上で立会業務に臨み、施工者に負担をかけず、安全・迅速・的確・公正に業務を行うように心がけています。



コンクリート打設完了状況

VOICE

発注者からの声

国土交通省 関東地方整備局 東京空港整備事務所
統括建設管理官 北上 晃さんにお話を伺いました。

羽田空港は、国際線の乗り入れに合わせてD滑走路をはじめターミナルなどが拡張され、それらに関係してスポットが足りなくなっています。第2ターミナルにも国際線のスポットや人工地盤ができれば、そこもスポットに利用される計画があります。羽田空港アクセス線や第1、第2ビルの延長など次々と新しい拡張の計画がされていますので、利用者にはどんどん便利になっていくと思います。

空港内の工事は、空港の運用に支障を与えないよう特別な注意が必要で、施工エリアの制限やクレーン等の高さ制限、制限区域内の立入承認、車両通行ルート of 制限、照明の制限、地中埋設物の確認などがあります。航空機の走行区域の工事では誤進入の防止や夜間閉鎖時間内での暫定復旧が必須で、復旧時にはブラスト対策などを行う必要があります。また、土工事等では土砂の飛散が空港の運用に影響を与えますのでこれの防止が重要となります。今回取材した旧整備場地区エプロンはスポットが閉鎖されている場所で昼間に工事ができるので、条件的には比較的工事しやすい場所ではありますが、やはり空港の厳しい条件下での工事と

なっているので注意して対応しています。

また、埋立地である羽田空港の下にはいろいろなものが埋まっています。支障物がたくさんあります。シールド工事等の掘削時にはそれらに当たってしまうこともあります。24時間空港なので、滑走路・誘導路などの基本施設は曜日によって変わる運用に合わせて工事を進めないといけません。発注者側としても工事をどのようにうまく割り付けるのか工夫が必要です。

来年からの「2024年問題」（働き方改革）で時間外労働の制限が厳しくなることもあり、そういう面でも苦労があると思いますが、SCOPEさんには今後も、技術力・品質の向上を願い、安全第一でやっていただきたいと期待しています。羽田空港は利便性と安全性の向上に向けて、空港アクセス鉄道整備の他にも様々な事業に取り組んでいます。世界中の人々が利用している空港ですので、今後ますます皆さんが使いやすい、安全な空港となるよう整備に取り組んでいきたいと思っています。



取材・文：(株)ホライゾン

SCOPE からのお知らせ

「港湾工事積算基準講習会」開催のお知らせ

◆プログラムの概要（全会場）

13:30～13:40	開会	15:05～15:55	港湾工事積算基準の改定概要について
13:40～14:20	港湾整備事業の実施に向けた取組について	15:55～16:15	積算基準Q&A及びSCOPEにおける積算に関する取組について
14:20～14:50	各管内の動向について	16:15～16:30	質疑応答
14:50～15:05	－ 休憩 －		

開催場所	開催日	募集人数	会場
横浜	3月7日(木)	対面：100人 WEB：150人	ワークピア横浜：横浜市中区山下町24-1
神戸	3月11日(月)	50人	ラッセホール：神戸市中央区中山手通4-10-8
広島	3月11日(月)	30人	SCOPE中国支部会議室：広島市中区大手町1-1-20
福岡	3月12日(火)	90人	JR博多シティ会議室：福岡市博多区博多駅中央街1-1
沖縄	3月12日(火)	60人	アイム・ユニバース てだこホール：沖縄県浦添市仲間1-9-3
新潟	3月13日(水)	80人	新潟ユニゾンプラザ：新潟市中央区上所2-2-2
高松	3月13日(水)	100人	ホテルパールガーデン：高松市福岡町2-2-1
札幌	3月14日(木)	対面：50人 WEB：100人	ACU-A（アスティ45）：札幌市中央区北4条西5丁目
仙台	3月14日(木)	70人	ハーネル仙台：仙台市青葉区本町2-12-7
名古屋	3月15日(金)	80人	愛知県産業労働センター（ウインクあいち）：名古屋市中村区名駅4-4-38

◆その他

- ・プログラムの内容、タイムスケジュールは調整中のため変更となる場合があります。
- ・本講習会は、土木学会継続教育（CPD）、土木施工管理技士会連合会継続教育（CPDS）および当センターの海上工事施工管理技術者、空港工事施工管理技術者、空港土木施設点検評価技士の継続学習のプログラム認定を申請予定です。

※詳細は当センターホームページをご覧ください。

皆様のご意見・感想をお待ちしております。



一般財団法人 港湾空港総合技術センター

URL: <https://www.scopenet.or.jp>

本部：〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-3-1 尚友会館3階
代表 TEL: 03-3503-2081 FAX: 03-5512-7515